

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	環境部 環境政策課	令和6年度
記入団体名	福原ファームクラブ	

予算事業名	環境基本計画推進事業	新規 ☐ 継続 ☒
-------	------------	--

協働事業名称	かわごえエコツアー		
協働事業の概要	市内の環境の現状と保全活動の大切さを学び自主的に環境活動に参加する人を増やすため趣旨に賛同した市民活動団体に協働委託して実施するものである。 実施日：令和6年12月7日（土） 行程：ウェスタ川越ーふちな農園・たばちゃん農園ー大木農園ーさんぽ舎ー矢野農園ーウェスタ川越 参加者：18名		
協働事業の決算額	90,000円	補助金額 (※提案型補助金の場合)	
事業の実施期間	令和6年7月17日 ～ 令和6年12月20日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	①
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	③

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評 価 の 視 点	実施段階	評 点		
			行 政	団 体	平 均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	35 点
------	------

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

協働事業は、それぞれの団体（民間・行政）が持っている利点や得意分野を活かした事業ができる制度であると考えております。

今回のエコツアーに関しましては、団体側が有している企画・運営力やネットワーク、行政が有している広報力や市民からの認知度を一体化することによって、より高い次元での事業が実施できたものと考えております。

企画内容は、バランスよくバラエティに富んだ内容となっており、参加者からの感想をみても、質の高いよい事業が実施できたものと考えております。

【市民活動団体等】

環境基本計画の一例である「かわごえエコツアー」を企画して運営をしてきましたが、

「かわごえ環境ネット」に参加してくれている企業もエコ活動の推進が進み、一般市民に新しく紹介する事業が少なくなってきました。よりグローバルになり、規模が大きくなっています。

身近なエコ活動、保全活動等のボランティア参加は、今まで活動してきた団体が高齢化によって縮小してきています。

経済活動の伴わないボランティア活動は岐路を迎えていると思います。

協働委託ではなく、一年を通して企画する「エコツアー事業」が出来る団体の登場を願っています。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	10	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	総合評価
B		ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	A
C		当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

・このエコツアーは実施団体のきめ細やかな計画で運営され、参加者の満足度が高い評価を得ています。

・評価シートに「一年を通して企画する「エコツアー事業」が出来る団体の登場を願っています。」と書かれていますが、どのような意味なのでしょう。

・いつもながら丁寧な活動だと思います。しかし、行政とうまくいかなかったことは残念でした。（高齢化・資金等において）

・継続できなくなったのは残念でした。

・民間が指摘している通り”エコツアー”という概念での協働事業について、再検討（他の団体だと新たな切り口での事業があるのか、あるいは一度休止して事業を実施するか否かの判断を行う等）する価値があるのではないかと（行政側が）。

その際、予算額に限度がある事、および提案型協働事業から“協働委託事業”に格上げしてもいい事業があることを考慮して検討していただきたい。

【事業に関するコメント】

- ・ 行政もボランティアに過度に依存する時代は終わりました。福原ファームさん永らくのエコツアーお疲れさまでした。感謝状を出してほしいくらいです。
- ・ 団体の感想を委員会でも取り上げ、今後の教訓としていきたいと思います。
- ・ 環境保全活動は、他組織を巻き込んだ積み重ねが重要です。華々しさを求めるのではなく地道に頑張ってください。
- ・ 企画内容も質の高いバランスの良いものになっていると思います。活動している方々が高齢化が進んでいるとのこと、どこの団体も高齢化が進んでいるように思われます。近場でももっともっと知りたい、行きたい所が多くあると思います。頑張ってください。（御自分達も楽しんでください。）
- ・ 以前からの要望事ですが、素晴らしい取り組みにもかかわらず、少人数／1回切りなのは残念です。団体が提案する通り、行政がもっと関与すべきと思います。（企画、運営等主催できないか。）グリーンツーリズムとして観光協会等も協力いただけないか。
- ・ 自然を体験し、自然を知ると同時に自然の良さ、逆に自然の力を知り、防災意識の育成にも関係すると思われる。
- ・ いつもながら、団体の能力に見合った企画を行い、実行することができていると感じています。
その一方で、経済活動の伴わないボランティア活動は岐路を迎えているのご指摘、蓋し慧眼だと思います。ボランティアに限らずいかなる活動においても、継続的に発展させていくためには世代交代が求められるものであり、より若い方々が参加するためには経済的メリットが必要であることも確かだと思います。そうした意味で、鋭い問題提起を頂戴したものと解釈しております。

協働事業評価シート（第三者用）

部課名	こども未来部 こども政策課	令和6年度
記入団体名	NPO法人川越子育てネットワーク	

予算事業名	子供・子育て支援新制度	新規 ☐ 継続 ☒
-------	-------------	--

協働事業名称	子育て情報誌作成		
協働事業の概要	川越市で子育て中の方やこれから子育てをする方が、安心して子育てができるよう、行政の制度、各種相談窓口、出産、子育てに関する情報などを紹介する情報誌を作成している。 その中の一部分を子育て中の市民と一緒に当事者の視点で必要な情報を掲載することとし、参加市民の募集や情報のとりまとめ、作成を行う。		
協働事業の決算額	150,000円	補助金額 (※提案型補助金の場合)	
事業の実施期間	令和6年6月17日 ～ 令和7年3月31日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	①
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	③

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評価点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	3	3	3
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	2	2	2
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	4	1	2.5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	2	2	2
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	4	4	4
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	3	2	2.5

合計点数	21 点
------	------

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

当事業は今回で23版目となる子育て情報誌の作成を行うもので、子育て当事者と行政双方の視点から子育て情報を掲載し、市内の未就学児のいる世帯へ冊子を配布することで、子育てを支援するものである。

掲載内容については、協働事業の実施により、市民活動団体の意見を取り入れながら、毎年読者のためになる情報誌となるよう心掛けている。

令和4年度版以降は、デジタル社会に対応するため、一部の記事をWEB版に移行し、掲載する情報を精査することで、より読みやすく情報が得やすいような冊子づくりを目指してきた。

今後は紙の冊子を発行し続けることに対する効果については検証し、市民に求められる子育てに関する情報発信のあり方を、既存のものにとらわれず、幅広く検討していきたい。

【市民活動団体等】

・当団体だけでは、妊婦さんから入学までの子育て家庭へ情報誌を届けることは不可能であり、協働事業だからこそ成し得たものと思う。

・こども政策課には、広報での告知や関係機関への取材交渉、制作会の会場確保等を協力していただけたことに感謝したい。

・子育て情報誌は「市の発行物」ではあるが、「市民と協働で制作する情報誌」として当団体がママ・パパ記者を募集し一緒に制作する20ページと表紙の絵に意味がある。その20ページと表紙の絵については、当団体の自主性を尊重していただきたい。

・毎年報告会では、協働審査委員からいただく意見に、「費用の増額」「団体の自主性の尊重」がある。しかし同じ評価を繰り返しているため、改善を期待したい。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	3	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	総合評価
B	3	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	C
C	4	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

・（評価シートの）評点で2と1があるのはどういった経緯があったのか、具体的に話を聞きたい。

・市民に必要な情報であり、大切なものと感じている。これからは紙でなくネット配信に変化していくかもしれない。

・行政と団体の間に不満が見えるのは残念である。食い違いを乗り越えてもらいたい。予算額も増やしてほしい。

【事業に関するコメント】

・行政と民間の意見対立が最後まで続き、感情的もつれにもおよんだように見受けられます。協働事業としては必要なものだと思いますが、他の団体でも実施可能なのか、来年度調査前に事前に十分吟味してからどうするのか、（行政側が）判断してほしいと思います。

・自己評価に対しての差が大きい項目がある。委員会で改めて両者から話を聞きたい。協働の根幹にかかわるのではないかと危惧する。この両者の考えの食い違いこそが協働の醍醐味で乗り越えていかななくてはならないこと。

・求めるニーズが益々多様化する中で、それをくみ取り「見える化」することは大変な努力が必要だと思います。拡大するインターネットとのリアルタイムな情報提供の考え方を整理することも重要だと思います。

・子育て情報誌をこれからも、各方面から意見を聞いてい続けてほしいと思います。

・歴史ある刊行物となり、有意義な情報誌だが、行政と団体間で細かい行き違いがあるようです。話し合いも重要だが、誌面全体も大きく市と団体と執筆を分けている状況なので、もっと団体部分は団体の自主性にまかせてはどうか。

・貴重な情報誌だと思うが、ペーパーレスの時代にどう対応するか課題。

・フィードバックは常に必要。

・協働事業の基本は、相互の情報共有に基づく信頼関係であると承知しています。それぞれが自らの「思い」「やりたいこと」を主張する上でも、単に「こうしたいから」ではなく、「なぜそれが必要なのか」といった点について情報共有がなされた上で、議論を進める必要があるのではないかと考えます。

また、協働事業は市民と行政とが「対等」の立場であることも重要です。行政の主張のみが通るようなことがあっても、逆に団体側の主張のみが通るようなことがあっても、それは対等とはいえないのではないのでしょうか。

協働がなぜ望ましいとされるのかといえば、様々なアクターが対等の立場で意見を出し合いながら「相互作用」を繰り返すことで落とし所を見つけ、多くの人にとって望ましい政策を作ることができると考えられるからだと考えられます。一度この原点に立ち返る必要があるのかもしれない。